

## 2011 年度 入学 試験 問題

# 日本史 B

(試験時間 10:30～11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、電算処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。



Ⅰ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。問2～問6はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

鎌倉時代後期から畿内やその周辺では、強い団結を示す村落が成立しはじめ、南北朝の動乱のなかでだいに各地に広がっていった。農民が荘園領主らの不当な要求に抵抗し、また、自然災害や戦乱から生活を守るために、地域的な団結を固めたのである。農民がみずからつくり出したこの自治的村落は惣村(惣)<sup>①</sup>といわれる。その多くは、村の神社の祭礼行事をおこなう氏子の組織である [ 1 ] を中心にして結成されていた。惣村は村民の会議である [ 2 ] の取決めにもとづいて運営された。[ 2 ] では指導者が選ばれ、日常生活、用水の分配、年中行事の運営、共同利用地の確保などが取り決められた。また、村民はみずからが守るべき規約である惣掟を定めたが、そのなかには警察権・裁判権に関する村民の自治をしめす [ 3 ] が明記されることもあった。さらに、村では、領主へ納める年貢などの納入を村全体の責任で引き受けるといふ [ 4 ] もおこなわれるようになっていった。

結束がかたい惣村の農民は起請文を作成して [ 5 ] の儀式をし、一揆を結び、荘官の免職や、水害・干害の際の年貢の減免を荘園領主に要求した。

貨幣経済の進展にともなって、農民は借金に苦しみ、農民のなかには土地を手ばなす者も少なくなかった。また、幕府や荘園領主が各地に関所を設けて関銭を徴収したので、馬借などの運送業者の生活がおびやかされた。そこで、荘園の枠組みをこえて結びつきを強めた惣村の農民や運送業者らは結束して、地域的に広いつながりをもつ土一揆によって、これに抵抗するようになる。

③ 1428年、[ 6 ] 国の坂本の馬借が徳政を求めて蜂起したのをきっかけに、京都周辺の農民たちも武装して蜂起した。彼らは京都の高利貸を襲撃し、貸借や売買に関する証文をやぶりすて、質物を奪いとった。この土一揆はたちまち大和・河内・播磨へと波及した。これは正長の土一揆とよばれ、幕府や朝廷に大きな衝撃をあたえた。

④ さらに、1441年、京都を中心に数万人が蜂起し、連携をとりつつ京都の出入口をすべて封鎖し、幕府と交渉して、土地取戻しや債務破棄を認める徳政令を出させることに成功した。これは最も大規模な土一揆であり、[ 7 ] の土一揆とよばれる。

⑤ これらの二つの土一揆によって高利貸が被害をうけたため、彼らに課す倉役や [ 8 ]

という税を重要な財源としていた幕府は大きな打撃をこうむった。その後も畿内やその近国ではたびたび土一揆がおきて、幕府に徳政を要求した。

そこで、1454年の [ 9 ] の徳政一揆以降、幕府は [ 10 ] 銭とよばれる手数料を納めた者に、債務破棄を認める [ 10 ] 徳政令を乱発し、税収の減少をおぎなおうとするようになった。また、高利貸が [ 10 ] 銭を幕府に納めて徳政対象からはずしてもらった場合もあった。

問1 文中の空欄 [ 1 ] ~ [ 10 ] に入る最も適切な語を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関する次の文章のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 通常、荘園や郷の内部には、一つの集落によって構成される惣村が複数存在した。
- b 惣村には農民であることをやめ、守護などと主従関係を結んで侍身分を取得した地侍がいた。
- c 強訴や逃散などの共同行動をとる場合に、いくつもの惣村がまとまった、より大きな結合体である惣荘・惣郷が結成されることが多かった。

問3 下線部②の指導者の呼び名を指すものにはイ、そうでないものにはロをマークしなさい。

- a 沙汰人      b 番頭      c 若衆

問4 下線部③に関する次の文章のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a ほとんどの土一揆は徳政を要求したが、1429年の播磨の土一揆は守護富樫氏の軍勢の国外退去という政治的要求もかかっていた。
- b 土一揆の発生の背景には、疫病の流行や社会不安があった。
- c 土一揆の影響のもとに、幕府とは別に、寺社なども独自に徳政をおこなった。

問5 下線部④の正長の土一揆を鎮圧した者を次の中から1人選び、その記号をマークしなさい。

- a 細川勝元      b 赤松満祐      c 上杉憲実  
d 斯波義廉      e 畠山満家

問6 下線部⑤に関する説明文として正しい文章になるように、以下の文章の空欄  と  に入る適切な人名を次の中からそれぞれ1つ選び、その記号をマークしなさい。適切な人名のない場合には、該当なしのfの記号をマークしなさい。

1428年の土一揆は将軍  の死後に発生し、1441年の土一揆は将軍  の殺害の後におこったように、将軍の代がわりを契機にして、徳政が期待された。

- a 足利義教      b 足利義勝      c 足利義持      d 足利義量  
e 足利義政      f 該当なし

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。問2～問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

応仁の乱後、約1世紀にわたって戦国時代が続いた。地方の統一をなし遂げた者の中には、上洛して天下に号令をかけようとのぞむ者もあらわれた。そのような戦国大名の中で他の者より一歩早くこれを実行に移したのが、織田信長である。

織田氏は元々越前織田の出身で、守護である斯波氏に仕えていたが、尾張の  として次第に主家をしのぐようになった。信長の家は織田本家の奉行を務める家であったが、信長の父信秀の時代に台頭し、織田家を代表する家となった。信長は一族や家臣との戦いを勝ち抜き、尾張を統一した。

尾張統一後、上洛の途にあった駿河の今川義元を桶狭間の戦いで倒し、美濃の斎藤氏を滅ぼした後、室町幕府13代将軍足利義輝の弟義昭を奉じて入京した。しかしながら、近江北部に拠点を置く浅井氏が越前の朝倉氏と手を結び、さらに六角氏、本願寺、延暦寺が呼応して反信長勢力が形成された。信長は、戦国大名だけでなく、仏教勢力とも戦いを繰り広げた。石山本願寺との戦いは10年を超えるものであった。しかし、キリスト教に対しては、仏教勢力に対抗する意味もあってか好意的な態度を示しており、安土に  , 京都に  の建設を認めた。

信長は、このような戦国大名や宗教勢力との戦いに勝利をおさめつつあったが、① 政權の基盤を固める途中、家臣の明智光秀に攻められ、京都の本能寺で敗死した。

信長の有力家臣の一人であった羽柴秀吉は、信長の死後権力闘争を勝ち抜き、② 信長の後継者としての地位を固めた。秀吉は、1585(天正13)年に朝廷から関白に任じられ、姓を  に改め、1586(天正14)年に太政大臣となった。

全国統一を実現していく中で、秀吉は全国の戦国大名に対して、停戦を命じ、その領土の確定を秀吉の裁定に委ねることを強制する③ 惣無事令を通告した。秀吉は、1588(天正16)年に  天皇に  への行幸を仰ぎ、ここで諸大名に天皇と秀吉への忠誠を誓わせた。これは、惣無事令が天皇から委任された全国的支配権に基づいて行われたことを示すという意味を有するものであった。このように、秀吉の全国支配は軍事的征服と伝統的支配権を巧妙に利用して進められた。

秀吉は、新しく獲得した領地に次々と④ 検地を施行した。この検地により、土地の面

積表示の新しい基準が設けられ、枡の容量の統一が図られた。

秀吉は、政務等の国政を担当する組織として、五奉行と五大老を置いた。五奉行には石田三成ら秀吉の腹心である大名をあて、<sup>⑤</sup>五大老には徳川家康ら有力大名をあてた。

秀吉は信長と同じように茶の湯を好んだ。信長が茶道具を恩賞として家臣に与えていたのに対して、秀吉が催した北野大茶会は庶民にも参加を許すものであった。

に学び、信長と秀吉に仕えた千利休は侘茶を大成させた。その素朴で閑寂な精神は建築様式にもあらわれている。<sup>⑥</sup>利休の趣向が反映されたものと伝えられる

は、二畳ほどの狭い空間であるが、狭さを感じさせない工夫が施されている。秀吉が黄金の茶室を作り、大掛かりな茶会を開くなど、桃山文化全体が華やかなものである中で、利休の到達した境地は、秀吉との衝突を余儀なくさせるものであった。

問1 空欄  ～  に入る適切な語を答えなさい。

問2 下線部①に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 信長と対立した一向一揆の拠点であった石山本願寺の跡地に築城されたのが大坂城である。
- b 信長が撰銭令や関所撤廃令を出したり新道を建設したのは、物資の流通や軍隊移動の円滑を図るためであった。
- c 信長の軍事力が強大だったのは、直轄地とした佐渡、石見、生野の鉱山から産出される金銀という経済力の裏付けがあったためである。

問3 下線部②に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 秀吉が明智光秀を破った山崎の戦いの後、信長の後継者を決定した清洲会議において、秀吉は信長の長男信忠の子を擁立した。
- b 小牧・長久手の戦いにおいて、秀吉は徳川家康と密かに和睦をし、信長の次男信雄を孤立させた。

- c 紀州平定において、秀吉は、真言宗の僧兵だけでなく、一向宗の勢力も制圧した。

問4 下線部③に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 小田原攻めは、この通告違反を理由とするものであった。
- b この通告は、戦国諸大名の分国法の内容である喧嘩両成敗を全国に及ぼすものであった。
- c この通告は、当初は関東や奥羽の諸大名への命令として発したものであり、直後に九州へも及ぼされた。

問5 下線部④に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 信長が行った検地は、領主に支配地の面積や収入額などを申告させる指出検地であった。
- b 秀吉の検地により、ひとつの土地に数人の者が権利をもつ複雑な土地関係が整理された。
- c 秀吉の検地は、山城・近江で農民の逃散が発生したり、肥後で土豪一揆が発生したため、農民の土地所有関係を明らかにすることで農民の不満を解消することをねらいとしていた。

問6 下線部⑤に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 秀吉は五奉行および五大老を置いて政治組織の整備を図ったが、それは十分なものではなかった。
- b 五大老は政務処理の最高機関としての役割を果たし、それぞれが行政・司法・財政を分担して担当した。
- c 石田三成ら五奉行は、関ヶ原の戦いでは西軍に属し、この戦いに敗れて処刑された。



問7 下線部⑥に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 利休の門人には，織田有楽斎や古田織部といった武将がいる。
- b 茶器には中国の陶磁器などが珍重されていたが，利休らによって日本陶器の楽焼などが用いられるようになった。
- c 利休は，秀吉が直轄領とした堺の商人の一人であった。

問8 下線部⑦に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 狩野永徳作の洛中洛外図屏風は，織田信長が上杉謙信に贈ったものとされる。
- b 狩野永徳は大和絵を母体として画風を大成し，長谷川等伯や海北友松といった門人を輩出した。
- c 狩野永徳作の唐獅子図屏風は，秀吉が毛利家に講和記念として贈ったものである。

Ⅲ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1・問12は記述解答用紙に答えなさい。問2～問11はマーク解答用紙にマークしなさい。(40点)

明治政府は、欧米の技術を導入して近代的な産業の育成をはかり、資本主義化を推進した。また、政府は、幕府や藩の経営だった軍需工場や鉱山の経営を引き継ぎ、さらに、の技術指導を得て官営模範工場として富岡製糸場を経営した。その他鉄道・造船・電信・郵便などの分野でも殖産興業政策が進められた。一方、財政基盤<sup>①</sup>の弱い政府は、統一国家実現の道筋が見えてきた1871年に新貨条例を公布して、全国一律の貨幣制度を整備した。政府は金融制度の整備も進め<sup>③</sup>、国立銀行条例を制定して、民間銀行の設立によって、兌換紙幣を発行させようとしたがうまくいかなかった。<sup>④</sup>

財政安定化をめざす政府は、1872年に土地の私有と売買を認め、それに伴い、土地所有者に面積と地価などを記した地券を交付した。<sup>⑤</sup>このように近代的土地所有制度の前提を整えて、政府は1873年に地租改正条例を公布した。<sup>⑥</sup>

政府は近代的軍事制度の整備もはかった。廃藩に先立って、御親兵と旧藩兵による常備軍を編成して、1871年に、東京・大阪・熊本・仙台にを置いた。1872年には国民皆兵をうたうが出され、翌年、が定められた。<sup>⑦</sup>

殖産興業政策や西南戦争の軍費をまかなうために多額の不換紙幣が発行された。このため急速にインフレが進み、物価が高騰した。明治十四年の政変後に大蔵卿に就任した松方正義は、軍事費をのぞいて緊縮財政を実施して、財政危機の乗り切りをはかった。<sup>⑧</sup>1882年には、日本銀行を設立し、兌換の銀行券を発行して貨幣制度を整備した。

政府は、官営事業の赤字解消のため、官営工場や鉱山の民間払下げを進めた。<sup>⑨</sup>

緊縮財政の結果、物価はデフレとなり深刻な不況に陥った。とくに農民は、米価や繭価が低落する一方、地租が実質的増税となって大打撃を受けた。その結果、自作農から小作農に転落するものが増加し、地主への土地集中が進んだ。

この不況により、有力農民は民権運動を続ける余裕を失ったが、不況下の困窮のために、一部地域では民権運動が急進化した。<sup>⑩</sup>

問1 空欄  には国名を，空欄  ～  にはもっとも適切な語を答えなさい。

問2 下線部①に関連する説明文として，正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 政府は，幕府がアメリカに与えていた江戸・横浜間の鉄道敷設権と経営権を無効とした。
- b 日本は，1877年に万国郵便連合条約に加盟した。
- c 前島密の建議により飛脚にかわる官営の郵便制度が発足し，民間の郵便事業は禁止された。

問3 下線部②に関連する説明文として，正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 殖産興業政策により行われた事業には，資金不足を解消するために，積極的に外国資本が導入された。
- b 殖産興業政策は，当初農商務省が担当したが，後に内務省に引き継がれた。
- c 殖産興業政策の一環として，第1回内国勸業博覧会が開催された。

問4 下線部③に関連する説明文として，正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 新貨条例は，金本位制の確立をめざしたものである。
- b 江戸時代の貨幣単位の一つである1両を1円とした。
- c 10厘が1銭，10銭が1円と定められた。

問5 下線部④に関連する説明文として，正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 国立銀行は，国立銀行条例制定時には4行が設立されたにすぎなかった。
- b 日本銀行設立後，国立銀行は普通銀行となった。
- c 第一国立銀行の建物は三井組ハウスとしてつくられた。

問6 下線部⑤に関連して、このときまで土地の売買を認めていなかった法令が発令されたときの将軍の名を次のなかから選び、その記号をマークしなさい。該当する将軍の名がないときは、該当なしのeの記号をマークしなさい。

- a 秀忠      b 家光      c 家綱      d 綱吉      e 該当なし

問7 下線部⑥に関連する説明文として、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 地価が決定すると、毎年の収穫物の種類や収穫量は課税基準として考慮されなかった。  
b 地券所有者を納税者とし、金納としたが、小作料は物納だった。  
c 農民が共同で利用して所有権を立証できない山林・原野などは、官有とされた。

問8 下線部⑦に関連する説明文として、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 国民皆兵といっても戸主やその相続人、270円の代人料をおさめる者などは、兵役を免除されたため、兵役を免れるための養子縁組もしばしばおこなわれた。  
b 国民皆兵の考え方は、もともとは長州藩で奇兵隊を組織した高杉晋作に発し、奇兵隊指揮官だった山県有朋に受け継がれた。  
c 1874年に設けられた屯田兵制度も、国民皆兵という考え方に基づくものだった。

問9 下線部⑧に関連する説明文として、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 第一次松方内閣は、第2回総選挙の際に選挙干渉をおこなった。  
b 国立西洋美術館の松方コレクションとは主として松方正義が収集したものである。  
c 第二次松方内閣は、大隈重信を外相として入閣させ、松隈内閣と呼ばれた。

問10 下線部⑨に関連する説明文として、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 三井・三菱などの政商は払下げを受けて、財閥として発展する基礎をつくった。
- b 松方正義は大蔵卿に就任すると、工場払下概則を公布したが、厳しい条件を付していたため払下げが進まなかったため、後に廃止した。
- c 阿仁銅山、兵庫造船所、富岡製糸場などが、この方針に基づき払い下げられた。

問11 下線部⑩に関連する説明文として、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 伊勢暴動や真壁騒動は、自由党员と農民が決起した事件だった。
- b 福島事件は、三島通庸が、河野広中ら自由党员の強い影響下にあった県会の反対を無視して、農民に労役を課して道路建設を強行しようとしたことから農民が蜂起した事件である。
- c 秩父事件は、困民党を称する農民が負債の減免を求めて蜂起したのに対して、政府が軍隊を派遣して鎮圧した事件である。

問12 明治前期（1868年から1887年）に発生した農民騒擾の傾向に関して、要求内容の変化を100字以内で述べなさい。





